

《第143回》 令和七年五月の作品

〈五月九日（金） 日暮里界限吟行

於・「ふらっとにっぽり」

山法師あまた地蔵の古刹かな （一江）

子規庵

床の間に柿の一句や初夏の庭 （孝昭）

朝倉彫塑館

中庭の巨石を覆ふ青葉かな （隆治）

月見草弾痕残る経王寺 （貴美）

岡倉天心六角堂

母と嬰兒この破顔一笑風薫る （奉男）

のぼさんの伏して見た庭草萌える （正佳）

芹咲きて馬琴の筆塚硯塚 （正雄）

薫風や伝統つなぐ繊維街 （前歩）

日暮里の商店街の薄暑かな （平六）